

2002年6月28日

報道関係各位

ノバルティス ファーマ株式会社

ノバルティス（スイス）が発表しましたリリースの日本語訳をご参考までにお届けします。

高血圧研究の先駆者2人の高血圧分野における啓発活動に対し スティーボ ジュリアス賞を授与 - 国際高血圧学会で授賞式 -

2002年6月26日、スイス、バーゼル市 - 高血圧の研究と病態理解に大いに貢献し、多くの若い科学者たちを指導したことで世界的に有名なジョン ララー博士（Dr. John Laragh）とジェレミー スタムラー博士（Dr. Jeremiah Stamler）に対して、本日、その高血圧に関する啓発活動をたたえてスティーボ ジュリアス賞が授与されました。ララー博士が、レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系（RAAS）とそれに続くRAAS阻害への理解に果たした役割は、決定的なブレイクスルーとなり、心疾患治療における重要な進歩への道を開きました。一方、スタムラー博士の冠動脈性心疾患の危険因子に関する画期的な研究は、心疾患の予防および管理の面で、実地診療に大きな影響を与えました。この賞は国際高血圧学会により、国際高血圧学会と欧州高血圧学会の合同会期中にララー博士とスタムラー博士に授与されました。本賞は、ノバルティス ファーマ社（スイス）の教育助成金に支えられています。

「ノバルティスは、心血管研究および治療における世界のリーダーとして、この名誉ある賞の授与にあたり国際高血圧学会とパートナーを組むことができたいへん光栄です」とノバルティス ファーマ社の開発部門の責任者ユルグ ラインハートは述べました。

「ララー博士とスタムラー博士は、高血圧やその他の心血管疾患の分野で際立った業績をあげられ、また、数々の発見をされました。同時に、お二人は高血圧についてのわれわれの理解を根本的に変え、それがこの病気に苦しんでいる多数の人々の生存率を高め、生活の質（QOL）を高めることへとつながっています。」

高血圧分野の研究者を対象としたスティーボ ジュリアス賞は、ジュリアス博士の非常に重要な高血圧分野での啓発活動をたたえて、国際高血圧学会の評議員会によって設立されたものです。この賞は、科学者や専門家を対象に高血圧についての教育を実施し、あるいは医師全体に対して同様の教育活動を行って顕著な業績をあげた個人に贈られます。スティーボ ジュリアス博士はミシガン大学の内科教授です。

「今年の受賞者に、スタムラー博士とララー博士が選ばれたことをたいへんうれしく思っています。お二人は、この分野では高名な方々で、高血圧の病態理解のため、早くから独創性に富んだ貢献をされてこられました。また、数多くの科学者たちの良き指導者としての役割を果たしてこられましたし、一般の人々が高血圧についての知識を高めるよう推進することに今なお深く関わっておられます」とスティーボ ジュリアス博士はその貢献をたたえています。

ララー博士は、レニン・アンジオテンシン・アルドステロンの内分泌コントロール系を発見し、この系が、体内のナトリウムとカリウム含有量を変えることによって正常血圧調整に働く重要な因子であることを明らかにしました。彼は、血漿中のレニン・アンジオテ

ンシン濃度やアルドステロン濃度が過度に高いと悪性高血圧を引き起こし、眼、脳、心臓、腎臓の血管に致命的な損傷を与える原因となることを立証しました。次いで、より軽度の血漿中レニン・アンジオテンシン系の過剰を多くの本態性高血圧の原因として、また、本態性高血圧患者に心臓発作、心不全、脳卒中を引き起こす血管毒物質として結びつけました。ララー博士は、血漿中のレニン系活性を3つの異なる部位で阻害する3つの方法、すなわち、遮断薬、サララシン（最初のアンジオテンシン受容体拮抗薬 [ARB]）、テプロタイド（最初のアンジオテンシン変換酵素阻害薬 [ACE阻害薬]）を確立しました。このように、ララー博士の研究は、レニン系、高血圧、心血管疾患の関係についての新しい理解を与え、したがって、また、これら疾患の治療に大変革をもたらしたのです。

スタムラー博士は、その業績を通じて、主要心血管疾患の原因と予防、および、高血圧などその重要な危険因子に関するいくつかの画期的な臨床研究を主導しています。例えば、Michael Reese estrogen trial, Chicago Coronary Prevention Evaluation Program, National Diet-Heart Study, Multiple Risk Factor Intervention Trial, Hypertension Detection and Follow-Up Program trial, Systolic Hypertension in the Elderly trial, Primary Prevention of Hypertension trial、食事パターンや食塩が血圧に与える影響についてのDASH trialなどです。また、中核的なシカゴ地域ベース研究の先頭に立っています。これは、4,500人の成人男女を25年以上にわたって追跡している試験で、ライフスタイル、危険因子、心疾患や脳卒中による死亡の間の関係について、非常に重要で新しい理解を導くものとなっています。さらに、博士は、初の心血管疾患多因子一次予防トライアルであるChicago Coronary Prevention Evaluation Programや、15,000名の成人を対象に複数の食事因子が血圧に与える影響を検討している国際共同INTERSALTとINTERMAP研究を展開しました。

「国際高血圧学会とノバルティスを代表し、ララー博士とスタムラー博士が今年この賞を受けてくださったことをたいへん光栄に存じます。お二人はまさにこの賞に最もふさわしい方々であると思います。ララー博士とスタムラー博士は、人の生命予後の改善につながる高血圧の予防と治療における進歩への道筋をつける発見をされ、この賞が設立された本来の目的である価値とリーダーシップの向上に貢献されたのです」と国際高血圧学会会長ミムラン教授（Professor A. Mimran）は語りました。

降圧薬ディオバン®（バルサルタン）を販売するノバルティスは、高血圧や心血管疾患分野における将来の開発にコミットしています。この目的を達成すべく、ディオバンは、以下のARBに対する世界最大規模の臨床試験プログラムにより支持されています。最近終了したVal-HeFTトライアル（心不全患者）や3つの現在進行中の主要な多国共同罹患・死亡トライアルであるVALUE（ハイリスク高血圧患者）、VALIANT（心筋梗塞後患者）、NAVIGATOR（心血管イベントに対するハイリスクな耐糖能障害患者）などのプログラムです。

ノバルティスは、医薬品、コンシューマーヘルス、ジェネリック、アイケア、動物薬を事業の柱とする、ヘルスケアにおける世界的リーダーで、ニューヨーク証券取引所に上場しています。ノバルティス グループの継続する事業の2001年度の売り上げは320億スイフラン（約2兆2,400億円）、研究開発には約42億スイフラン（2,940億円）を投資しています。スイス・バーゼル市に本拠を置くノバルティスは、約71,000人の社員を擁し、世界140カ国以上で事業を行っています。詳細は、<http://www.novartis.com>をご覧ください。